



表紙の説明

明治31年留萌尋常小学校潮静分教場として開校。明治38年現在地に独立して留萌第一尋常小学校として開校。大正5年潮静小学校と改称。昭和16年潮静国民学校と改称。昭和22年4月留萌町立潮静小学校。同年10月市制施行により、留萌市立潮静小学校と改称。昭和54年現校舎改築落成する。



ちびっこギャラリー

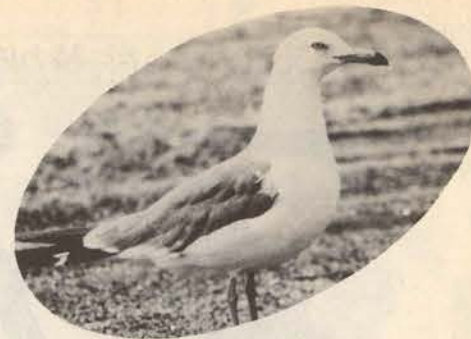
お子さんの絵を募集しています ☎2-1801 内線293番までご連絡ください。



「誠子せんせい」(留萌保育所)

いわさき りょうくん (5歳・寿町)

「やさしくて、きれいな誠子せんせいをかきました。でも、せんせいは、わるいことをすると、とてもこわいからおをします。だいすきな誠子せんせいです。」



留萌 いまむかし

第五十三話

億太郎の海馬島開発1

数年前の大韓航空機墜撃事件で有名になったモネロン島。サハリン(旧樺太)の南端シラヌシの西の洋上に浮かぶ小さな島である。旧名海馬島という。この島が留萌の五十嵐億太郎と関係があったことを知る人は数少ないと思われる。海馬島はサハリン(樺太)の一部として、明治八年の千島樺太交換条約によりロシア領となった島である。ところが、それ以降日本とロシアの関係は悪化の一途をたどり、明治三十七年二月一日、遂に日露戦争の幕が切って落されたのである。

この時、億太郎は三十一歳、北海道でも指折りの青年実業家として名を馳せていた。そして、この年の道会議員選挙に出馬し、見事当選。こんな億太郎をほうって置く世の中ではなかった。日露開戦ともにも海馬島の重要性から島の占拠計画がいくつか立案されていた。しかし、北海道庁や軍部では、単なる占領でなく、占領後の開発と経営がなければ島の占領は無意味であることから、その人選に難航していた。候補者として彼が浮上したのは当然であったがもしれない。彼も、日露戦争に対して民間から貢献することをいさぎよしとして、この計画に賛同し、海馬島の占拠と開発を行うために出田平馬、阿部茂惣八、長沢真一郎、高橋弁蔵等五十人で甲辰義会を結成した。

明治三十七年四月六日、五十名の会員を乗せた武装西洋型帆船大日丸は決死の覚悟で一路留萌港をあとに海馬島へ向けて出航した。同二十三日未明、海馬島に上陸、運良く島にロシアの守備隊は居らず、古丹に上陸し、無血占領を果たした。一年次の事業としては漁業経営にあたるための準備をすることである。宿舎の設置、島の地形の測量、海流等の調査、漁業資源の調査などにあたった。

六月になるとトドの群れが島に押し寄せてきた。海馬島という島の名前もこのトドからきたものである。それとにも対岸の樺太から川村小助に率いられたアイヌの人たちがトドを漁にやってきた。億太郎は彼等から誓約書を取り、大日本帝国に忠誠を誓わせ帰順させた。

この間汽船豊山丸を購入し、宗谷との連絡に従事させ、九月十六日、長沢、高橋の越年者を残し北海道へ引き揚げた。つづく



(海馬島五十嵐) 創業当時の元場の景 (明治41年)